



環境学の

# 授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



野村先生

## 【今回の授業】環境政治セミナー 野村 康 教授

野村康先生の「環境政治セミナー」では、毎年後期は、タイトルを少し離れて「社会科学の方法論」をテーマにしています。

「日本の大学(院)での方法論教育は、指導教員の得意分野を引き継いで学んでいくスタイルが多いと思いますが、欧米では方法論教育が体系化されており、幅広く学びつつ自分のスタイルを確立していく形がポピュラーです。日本でも留学生や社会人など、学生の背景や進路・ニーズが多様化していることを考えると、体系的・包括的に教える必要があるのではないかと思います」と野村先生。

ゼミは、第一回目にリーディング・リストが渡され、毎週異なる本や論文を読んでいくというスタイル。それを通して、複数のリサーチ・デザインやデータ収集の手法を、社会科学における認識論という考え方に沿って体系的に学び、「研究の問い」に答えを導き出すための力をつけていきます。

こうした多様な手法やリサーチ・デザインをまとめて学べるゼミはあまりなく、**その上、英語対応科目ということで、留学生や他研究科からの参加者が多いのも特徴です。**学期の最後には、ゼミで学んだことを踏まえて、各自の研究計画を発表する機会を設けていることもあり、全員が自分の研究に結び付けて熱心に学んでいます。「それぞれが今後、研究者としてだけでなく、政府機関・企業等における仕事の一環として調査を行う際にも、さまざまな手法やリサーチ・デザインが役立つのではないかと野村先生は語ります。



時夢さん(中国)

私の研究テーマは、気候変動について。特にパリ協定における中国の政策転換に興味があり、その原因を調べることが大きな狙いです。この授業は、広い範囲で理論的なことが学べるので、これからの研究に役立つと思っています。



Philemon Maiennaka NANGUさん  
(バブアニューギニア共和国)

私はバブアニューギニアの政府機関で働いており、そこから名大に留学しました。政府では地方行政を担当する部署で災害などについて対応しています。この授業では多様な手法が学べるので、それが実際の場面でも役立つと思っています。



今期のゼミは、中国、スリランカ、バブアニューギニアからの留学生が学ぶ。